



はじめのいっぽ

令和2年度
3月号

令和3年2月26日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

第80回全国教育美術展
特選



三月！

コロナ禍の2020年度の締めくくりの月となりました。

運動会3月14日(日)・卒園式20日(祝)と赤帽子の年長組さんに

とっては行事が集中しますが、一つずつ丁寧に取り組んで行きたいと思います。

入学・進級の「春」を迎えます。

チーム東野田として、今出来る事に精一杯取り組んで参ります。

油断大敵！となるコロナ禍で皆様も睡眠・栄養に工夫されお過ごし下さい。



～アドラーより～

ふたたび勇気づけ

1. 子どもを信頼しよう

親が子どもの能力を信じないで、「どうせこの子にはできない」とか「私が守ってあげないと、この子は一人では生きられない」などと思っていると、子どもは「私は能力がある」と感じるようになりません。子どもを信頼して、子どもが自力でできそうなことは、親が手を貸さないで、子どもにまかせてみましょう。

2. 子どもを尊敬しよう

あなたは子どもを尊敬していますか？「子どもが親を尊敬するのならわかるけれど、親が子どもを尊敬するの？」と驚かれるかもしれません。しかし、お互いに尊敬しあっていなければ、子どもはほんとうの意味で「親は仲間だ」と感じてくれません。

3. 子どもに感謝しよう

子どもが家事などを手伝ってくれて、家族に協力するのは「あたりまえ」だと思っていませんか？そんなことを思っていると、しだいに子どもは協力してくれなくなります。あなただってそうでしょう。家族に協力しているのに、誰も感謝してくれなければ、そのうちイヤになるのではありませんか？

子どもに感謝するということを学んでください。そして、機会あるたびに、子どもに感謝を伝えてください。

4. 王様もやめよう、奴隷もやめよう

親が王様のように子どもを支配するという親子関係を、現代の子どもは許してくれません。男女が平等であるように、大人と子どもも平等でなければならないことを、子どもたちは知っているからです。そのような子育てでは、子どもたちは、「親は仲間だ」と思ってくれません。

いっぽう、親がまるで奴隷のように子どもにサービスして暮らすことも、よい子育てではありません。そのような育て方をして、子どもは「私は能力がある」とは感じないでしょうし、「親は奴隷だ」とは思っても、「親と一緒に協力しあって生きていく対等の仲間だ」というようには感じないでしょう。

相互に尊敬しあい、信頼しあい、王様でもなく奴隷でもない平等で対等の仲間として、しかもお互いの違いを認めあいながら、協力しあって生きていくのが、アドラー心理学が提唱する新しい親子関係なのです。